



ヤギをノヤギにしないために——ヤギ飼養条例、制定される

八丈小島のノヤギの捕獲が始まって5年、数頭のオスを残すだけになるまで捕獲が進み、小島のノヤギ駆除事業は終了しました。この間、問題にされていたのが八丈本島で増えているノヤギで、対象面積が広く人が住んでいる場所での捕獲のむずかしさが指摘されていました。ノヤギ対策協議会（＝協議会）メンバーの一人として、駆除の実情と条例化されるまでの経緯を報告したいと思います。

東京都の支援 東京都は、外来動物がこれまで生態系に及ぼしてきた影響を看過できないとして、昨年4月から駆除対策にのりだしました。伊豆諸島では、大島（タイワンリス、タイワンザル、キョン）・新島（ニホンジカ）・八丈島本島（ノヤギ）が対象で、5年計画（都が75%補助）の事業です（島しょ農作物獣害防止緊急対策事業）。

協議会では 昨年、町は協議会を立ちあげ、八丈富士のノヤギ対策にのりだし、これまでに93頭を捕獲しました。一方、協議会では八丈本島でヤギが増えたのは、逃げ出した飼養ヤギが野生化して繁殖したためであり、現在ヤギを飼養している人の実態も把握した上で、今後は適正に管理されるべきという結論にいたりしました。この点が徹底されない限り、駆除は延々と続くことになるからです。

条例の制定 ノヤギ対策を進めるには住民の理解と協力を得ることが重要と考え、私は昨年9月の定例会で、ヤギ条例をつくるよう提案しました（ニュースレター24号）。年度内の条例化を訴えましたが、奄美大島のほかに前例がないため、多少時間がかかりました。協議会の土屋博会長は町に粘り強く働きかけ、ようやく今回の定例会で「八丈町飼養ヤギの野生化防止に関する条例」（＝ヤギ飼養条例）が承認されました。罰則はありませんが、これによって飼養管理者の責任を明確化したことが重要だと思います。

一方、実際飼養されている方々にとっては、「面倒になった」とあまり評判はよくありません。しかし、飼養者が個体管理を徹底し、これ以上ノヤギが増えなければ、農作物の被害も減り、結果的には八丈の自然を守ることにつながります。菊池睦男氏は条例化するだけでなくヤギの利用にも力を入れるべきだと要望しました。私も同意見です。

新潟ヤギサミットに参加 最近、全国的にヤギが注目されてきています。毎年開催されている全国ヤギサミットも今年で12回目。私は今夏、ヤギのチーズやヨーグルトをつくっている長野県上田市の民宿を訪ねました。宿のご主人と一緒に新潟まで足を延ばし、ヤギサミットに参加してきました。テーマは「ヤギの普及と地域の活性化」。全国から250人以上の参加があり、会場は熱気に包まれ、予想以上にヤギファンが多いことを実感しました。ヤギ乳やヤギ肉の生産と利用はもちろん、学校教育や地域振興、耕作放棄地の有効利用、福祉やアニマルセラピーでの貢献などについて報告され、幅広い役割があることを改めて知りました。

条例化された今、愛らしいヤギを町おこしにつなげていけるよう、観光利用やヤギ乳活用など、私も様々な提案をしていきたいと考えています。



ゴミ減量化を考える住民懇談会

10月、住民課による島内5ヶ所合計10回の住民懇談会が開かれました。私は大賀郷の夜の部に参加しました。まず町から、分別収集されたゴミがどのように処理されているのか、ゴミ処理費用がどこにどれくらい使われているのか、ゴミの減量が最終処分場の延命に必要であることなどの説明がありました。その後の意見交換では、生ゴミについて「コンポストに入れる前に熱処理をする」、「生ゴミ処理機を使う」、「畑に埋める」、「新聞紙にくるむ」など日頃実践している工夫や経験談が出ました。町の担当者からも、ダンボールに生ゴミが入っている、収集袋に名前が書いていない、分別せずになんでも入れるなど、マナーの悪いゴミ出しの例が示されました。また、八丈のゴミの量が伊豆七島の中でもっとも多い理由については、まだわからないそうです。

私は、ゴミの減量とゴミ出しマナーを徹底させることがあらためて重要だと思いました。町のゴミ処理の実態が明らかになり、住民からアイデアがでたことで、取り組むべき課題が確認できたことは、ゴミ減量化に向けた成果であったと思います。

20年度企業会計決算

町の企業3事業は、民間ならばすでに倒産している経営状態にあります。遅きに失した感がありますが、各会計の改革案が出され、経営改善への意欲が見えてきました。

水道事業——水は暮らしに不可欠なものですが、人口減少によって需要が減っていることや、老朽化した施設の更新などに経費がかさみ今年も赤字決算でした。さらに徴収努力が足りないと指摘された約7500万円の**未収金**については、そのほとんどが2件の大型ホテルの相次ぐ倒産によるもので、今後はこの処理が課題です。町は未収金の徴収を徹底した上で、悪質な滞納者には給水停止の処置をとることにしました。

バス事業——最も赤字割合が大きい事業で、20年度も一般会計から7000万円繰り入れました。バス事業に関する特別委員会は、路線バスと貸し切りバスは継続、定期観光バスは廃止の方向で検討していましたが、町はついに**定期観光バスの廃止**の方針をきめました。現在定期観光バスの平均乗車数は4-5人。4人以下では運行しないので、観光客にとっても利便性はよくなかったのです。いずれにしても、観光に支障がでないような**代替案**が必要です。町はタクシー業界と話し合いをしているそうですが、私は宿泊施設とタクシー会社との連携によって、きめ細かな案内や観光ルートが提供できるのではないかと思います。失敗を恐れずにあらたな試みに挑戦すべきです。

八丈病院——町は**町立八丈病院経営改革プラン**を示しました。職員を中心とした毎月の会議、職員の配置、都立病院との連携、医療安全対策、嘱託医師の受託など16項目について検討。私は、春に出されたこのプランがどのように実行されたのか、各項目についてまとめレポートを議会に提出すべきだと提案しましたが、答弁は、持ち帰って検討するにとどまりました。八丈病院はある雑誌の「都内で頼れる病院50」に入りました。医師やスタッフの負担もますます重くなっています。病院を維持するには、改革を進めつつ病院と住民がより密接な信頼関係をつくっていくことが大切だと思います。



編集後記

最近八丈町への視察が2つありました。岡山県早島町（はやしまちょう）町議一行は、宇喜多秀家の流刑地での暮らしぶりや、現在の町の実態を視察。八丈町議と、町の実情について1時間ほど交流をもちました。もうひとつの香川県小豆島内海町（うちのみちょう）町議一行は、町営バスの事業を視察に。民間の路線バスが経営破綻したので、住民主体で立ち上げた会社で事業の継続を決めたそうです。取り組みは八丈町にも参考になりました。

さちこのニューズレター
第二十八号 / 二〇〇九年十一月
編集・発行 奥山幸子
イラスト 奥山幸子



2009年9月議会 一般質問

<http://www7.ocn.ne.jp/~sachiko8/okuyama/>



1. ゴミ有料化の導入は慎重に

ゴミ処理問題協議会でゴミの有料化について検討されていますが、まだ問題を整理する時間が必要であり、広く住民の意見を集約した上で実施してほしいと思います。

① ワーキンググループの協議はどこまで進んでいるか。 ② 町の今後の実施計画は。

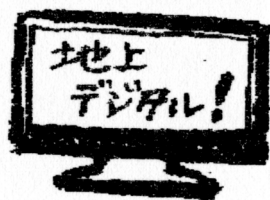
住民課長 ワーキンググループでは、有料化の概要や参考事例研究をする中で、住民との懇談会などにより意見交換を進め方向性を探るべきとの見解です。10月に懇談会を各地区で開く予定。それをもとに有料化の必要性、対象物、料金設定、減量効果と不法投棄対策などについて検討しながら慎重に進めていきます。

幸子 ゴミの出し方のマナーが徹底できていないので、町の指導も必要です。住民の協力を得るためには、町の現状を包み隠さず情報公開することが必要だと思います。

住民課長 町の情報はできるかぎり公開していきたいと思います。

2. 2011年の地上デジタル化に向けた受信対策について

地上デジタルに向けた送信設備などは整備されています。① 受信環境整備にかかる費用負担の軽減策はあるか。 ② 集合住宅や宿泊施設の整備はどのようにすすめるか。



企画財政主幹 ① 送信設備、難視聴地域解消のための中継局の設置、共聴加入世帯への対応は進めていますが、受信設備については町が費用負担する予定はありません。ただし、生活保護世帯などの公的扶助受給世帯で、NHK受信料免除を受けている世帯では、総務省が支援策として簡易チューナーとアンテナの無料給付を予定しています。② 集合住宅や宿泊施設の整備についても民間の施設ですので各施設

で対応していただきます。

幸子 高齢者に対しては受信対策に関するていねいな説明が必要と思うが、説明会など開く予定はありますか。

企画財政主幹 高齢者への説明会は必要だと考えていて老人クラブなどを通して周知していきたいと考えています。

3. 新型インフルエンザ対策は万全か

① 予防対策は十分にとられているか ② 治療についてはどう対処するか

病院事務長 ① 現在までに数名の方がインフルエンザAと診断され治療しました。日頃の予防を防災無線などで呼びかけ、マスクの着用や手指の消毒を励行しています。また、基礎疾患のある患者に対しての配慮もしています。② 治療については、治療薬の処方、患者への指導を行い、重症の場合のみ入院となります。学校などでの集団感染の拡大防止策も考えています。検査キットおよび治療薬の在庫は十分確保しています。



